

県立高等学校教育の在り方に関する地区別懇談会（盛岡地区②）
意見交換の記録（要旨）

【八幡平市、岩手町、滝沢市、紫波町】

令和 7 年 5 月 27 日（火）

岩手県公会堂 2 階 26 号室

佐々木 孝弘 八幡平市長

- ・ 現計画において 1 学級校の入学者数が 2 年連続で 20 人以下の場合は原則として統合とされている一方、1 学級校も含めた各地域の学校をできるだけ維持するということが記載されている。次期県立高校再編計画においても、この方針を継続していただきたい。
- ・ 八幡平市は広大な面積を有しており、特に安代地区からの通学が困難であることから、地区内の学級数維持について配慮いただきたい。
- ・ 八幡平市では、平舘高校の教育振興会を組織し、年間約 1700 万円の予算で制服購入費補助・通学定期購入費補助・部活動支援等を実施しているが、平舘高校への入学者は減少している。少子化のほか、部活動で団体競技を実施できないことから、市内の中学校卒業者が他校に進学していることが要因と考えられる。
- ・ 令和 6 年度からいわて留学を開始したが、宿泊施設がないこと等により実績はゼロである。寮の整備等については、今後、ますます県と市町村の連携強化が必要となる。

佐々木 光司 岩手町長

- ・ 岩手町では総合計画の柱の一つとして、シビックプライドの向上を掲げており、町への愛着と誇りを持つ人材育成が町の持続可能性の要となると考えている。
- ・ 沼宮内高校の存続が危機的状況の中、岩手町では魅力化プロジェクト等により地域との連携を強化する取組を進めている。
- ・ いわて留学について、今年の 4 月に岩手町が寮を整備し、現在 7 名が生活をしている。今後はいわて留学生の人数制限の撤廃を検討していただきたい。
- ・ 遠隔教育・オンライン授業等の導入により教員不足を補い、教育現場のイノベーションを促進し、岩手県の教育の価値を県外に発信するべきではないか。その中で、県外留学生を安定的に確保しながら、高校教育の運営を図る必要があるのではないかな。

岡田 洋一 滝沢市副市長

- ・ 滝沢市内の中学生は沿岸地域の水産系高校や近隣の雫石高校など、多様な進路を選択している。
- ・ 近年、市内の高校と協力し、地域課題の解決や市政推進に関する提言を大学生と共に行っているところ。
- ・ 今後、生徒数が減少する中、生徒が自分の将来に向けて多様な学びを選択できる環境や、県内各地域の特色を生かした学びの環境を引き続き作っていただきたい。
- ・ 私立高校では、新たな受験制度の導入が進んでいることから、公立と私立が共存できる受検制度の整備も進めていただきたい。

熊谷 泉 紫波町長

- ・ 紫波総合高校は 1 学年 3 学級だが、縮小傾向にあり、生徒数の維持と総合学科高校の魅力向上が重要課題である。
- ・ 総合学科の縮小傾向が見られる中、専門高校との差別化を図り、より魅力的なコースの設置が必要ではないか。例えば、紫波町の産業であるワイン醸造を生かした醸造や発酵に関する学びの場を

作ってはどうか。

- ・ 総合学科高校となった成り立ちを踏まえつつも、総合学科高校をより魅力的な学びの場とすることが必要である。

高橋 淳 株式会社高橋農園 代表取締役

- ・ 紫波町内の人口減少は緩やかだが、県内では深刻な課題であると認識している。現在、移住者について話題となっているが、市町村においても魅力的な発信を行い、移住促進を進めていく必要があるのではないか。
- ・ 中学生に対する高校の情報提供が不足している。特に農業高校や工業高校の実態が伝わっていないことから、現在の A I やスマート技術が導入された状況を広く周知する必要がある。
- ・ 農業でも経営能力が求められており、高校生の段階から経営に関する教育を行っていただきたい。
- ・ 現在の農業高校の学科が現状と合致していないため、よりビジネス要素を強化した学科に変更していただきたい。

塚田 崇博 A q s h株式会社 代表取締役

- ・ 生徒のリーダーシップ能力とコミュニケーション能力の二つが、近年、弱まっていると感じている。
- ・ ハロウインターナショナルスクールでは、人と人との繋がりを重視するプログラムを重視している。同じ内容でなくても、そうした視点を参考にしてはどうか。
- ・ 八幡平市では、高校生に対し企業のインターンシップを実施しており、盛岡市に比べて市内での就職率が高い。企業のコミュニケーション能力や、リーダーシップ能力が一因となっていることから、高校教育のプログラムにもそうした視点を取り入れてはどうか。

立花 賢生 有限会社タチバナ 代表取締役

- ・ 八幡平市の安代地区では、秋田県や二戸地区の高校に通う生徒もいるものの、平舘高校への進学者が一番多い。地域の中学生の受け皿として、平舘高校を存続させて欲しい。
- ・ 八幡平市は観光に力を入れていることから、観光に特化した学科を作ってはどうか。

中村 祐紀 有限会社外山商店 代表取締役

- ・ 高校教育に関しては、都市部と地方の公平性の担保が必要であり、通学時間についても 60 分以内で通学できる範囲に学校があることが望ましい。
- ・ ICT の活用や広域連携で教員が学校を移動して授業を行うなど、各校で同じ開設科目にするといった取組を検討していただきたい。
- ・ 金融、SNS リテラシー、LGBTQ 等、様々な教育が必要となっており、専門性を持っている地域の方に講師を依頼するなど、地域の力を活用できることが望ましい。
- ・ 他県ではマンガ学科や芸能を目指すコースを設置した学校もあることから、専門性のある学科の設置も検討していただきたい。

府金 秀一 岩手町認定農業者協議会 会長

- ・ 中学校卒業予定者数は減少傾向だが、令和 22 から 23 年には底を打ち、増加に転じた場合の状況についても考えなくてはならない。今後、若者の収入や結婚環境を整えなければ、地域や日本の存続が危ぶまれる。
- ・ 現在は学びの機会が広がり、努力次第で希望する進路を選べる時代ではあるが、大学進学後に学びが終わると考える人が多い。一生学び続けることが大切であり、子どもにもその考えを伝え、社会や自身の目標について考える力を養うべき。

- ・ 県立高校を再編するということが自体は悲しいことであるが、人口増加があれば再び活性化できる。

白澤 仁 株式会社栄建 代表取締役

- ・ 滝沢市の商工会は約 900 会員がいるが、人材不足や事業承継問題、M&A の影響で零細企業の退会が増加しており、社会の在り方が変わりつつあると認識している。
- ・ 現在の高齢者率は約 25%だが、20～30 年後には 45%に達すると予測されている。その時代を見据えた教育の方向性を議論しなければならない。
- ・ 今後の教育政策を考えたときに、公立と私立の共存に踏み込まなければ、根本的な問題解決にはならないのではないかと。

太田 豊 滝沢市農業委員会 会長職務代理者

- ・ 滝沢市農業委員会では盛岡農業高校の生徒との懇談会を実施し、農業知識の共有を進めている。盛岡農業高校卒業生は滝沢市の産業に大きく貢献している。
- ・ 農業社会が他産業に対抗するために、学力の重要性が増している。子どもたちには大学進学を勧め、視野を広げる教育を促している。
- ・ 盛岡農業高校の寮教育は教育環境として素晴らしいものと感じている。県立高校の再編を進める際にも、寮を整備し県全体から生徒を受け入れる仕組みを検討するべきではないかと。

富岡 靖博 株式会社トミオカ 代表取締役

- ・ 南昌みらい高校の統合により定員が約 120 名減少したものの、紫波総合高校の入学者数に変化はなかった。やはり生徒のニーズは普通高校の方が高いと考えられる。
- ・ 紫波総合高校を今後どう盛り上げていくかを考えたときに、いじめのない環境や楽しく通学できる学校づくりを重視するべきではないかと。そのことが、在校生から保護者、中学生に魅力として伝わるのではないかと。
- ・ 財源の話は別として、紫波町の給食センター移転新築を機に、紫波総合高校で給食の無償提供を行ってはどうか。また、エコロジーフード系列との連携により、地域食材を活用する仕組みを構築してはどうか。
- ・ 岩手県内の建設・土木業界の人材不足が深刻化しており、今後のインフラ整備を考えたときに建設・土木技術者の人材育成も重要である。
- ・ 工業高校の学科編制が時代のニーズに即していないのではないかと。建設業協会等と県土整備部、建設技術振興課との懇談を行う機会はあるが、県教育委員会とはそうした機会がないことから、県教育委員会に業界のニーズを伝える場が必要と考える。

高橋 直 八幡平市立西根第一中学校 P T A 会長

- ・ 高校進学に関して、進学先の選択に悩む保護者が多く、子どもの希望と経済的負担の面で苦慮している。
- ・ 平舘高校について、進学先の選択肢となるような魅力を発信する必要がある。高校生が小中学生と交流し、高校がどういった場所かを発信することで進学率向上につながるのではないかと。
- ・ 現在、医療・福祉分野でも深刻な人材不足が発生している。資格取得に多額の費用がかかるため、進学を断念するケースもあることから、支援策の検討も必要である。

畠山 仁士 紫波町立紫波第三中学校 P T A 会長

- ・ 近年の高校入試倍率を確認し、人気のある高校の倍率が高い一方で、定員割れの高校が多く存在することに気づき、変化を実感している。また、生徒数の減少がこれほど進行しているのかと驚きを感じた。

- ・ 生徒は大学受験だけでなく、将来のビジョンを考えながら高校を選択しており、進路決定の意識が高まっている。
- ・ 紫波町は盛岡、花巻、北上方面への通学が可能であり、生徒の進学先の選択肢が多い地区ではある。地域によって進路選択が制限される状況をできるだけ減らし、各地域で特色ある高校づくりを進めることで盛岡一極集中の是正につながるのではないかな。
- ・ 遠方の高校に進学する際の負担軽減のため、通学支援策も必要ではないかな。

星 俊也 八幡平市教育委員会 教育長

- ・ 平舘高校は地元で「ひらこう」と愛称され、地域産業を支える重要な存在である。伝統文化の継承や卒業生の地元就職を通じて、八幡平市に欠かせない存在として認識されている。
- ・ 定員を大きく下回る入学者数に対し、市として強い危機感を持っている。市内中学校からの進学者が減少し、盛岡市の私立高校への進学者が増加傾向にある。
- ・ 今後の高校授業料無償化でその流れがさらに加速する可能性があるが、これまで私立学校の募集定員について、どのような協議がなされてきたのか伺う。
- ・ 公立と私立の共存のためにも、県教育委員会が積極的に公立と私立の調整を主導するべきではないかな。
- ・ 長期ビジョンに「広い県土と中山間地域に配慮した学校配置」や「地域産業を担う人材育成」についての取組方針が記載されたことは、非常に心強く感じている。

佐藤 卓 岩手町教育委員会 教育長

- ・ 県の方針として、小規模校を大切にするという部分が感じ取れるようになってきており、大変ありがたいと感じている。岩手町は、沼宮内高校に対し様々な支援を行っており、引き続き高校の魅力化を図っていきたいと考えている。
- ・ 遠隔教育については、10年ほど前から試行されていることから、その成果を各学校に広めていただきたい。
- ・ 普通高校にも支援が必要な生徒が在籍していることから、加配などの配慮をいただきたい。
- ・ 大槌高校が探究学科を設置したように、各学校が独自の特色を持つ学科を設置する動きを、県教育委員会が主導していただきたい。

太田 厚子 滝沢市教育委員会 教育長

- ・ 全日制高校への単位制導入、遠隔教育の推進、支援学級の併設により、どの生徒にも学びの機会が保障されることを評価したい。
- ・ 滝沢市内の生徒も水産高校など遠方の学校へ進学する例もあり、学びの選択肢を広げることが重要である。また、将来の職業と結びついた学びの機会を確保すべきと考える。
- ・ 地域産業の伝承や人材育成に向けた学びを充実させるため、専門高校の教育内容を地域産業と連携させ、専門分野に特化した学びの場を作る等、専門高校を差別化、個別化していくことが必要ではないかな。

佐美 淳 紫波町教育委員会 教育長

- ・ 県立高校再編計画を進める際には「なぜ実施するのか」について理解される必要がある。理解されないまま議論を進めると混乱を招くことが懸念される。
- ・ 紫波総合高校は地元からの入学者が少ない状況である。紫波町は他地区の学校にも通いやすいことから、より魅力のある学校に進学していると思われる。
- ・ 総合学科高校は系列の設定が大事であり、差別化を図るためにも経営、ICT、醸造など、時代のニーズに合った特色ある系列の導入が必要なのではないかな。

- ・ 県の方針では小規模な総合学科は広域での再編の対象になるため、紫波総合高校も対象となる可能性が高いことから、今後は、普通高校等は違う総合学科高校の魅力を向上させなければならない。
- ・ 国の制度として総合学科が設立されて約 20 年が経過したところであり、県としてその在り方を検討する時期に入っているのではないかな。

及川 博文 岩手地区中学校長会 （滝沢市立滝沢中学校）

- ・ 生徒数の減少が続く中ではあるが、配慮が必要な生徒は増加している。そうした生徒の進路実現をどう図っていくかが今後大切になってくる。
- ・ 不登校となった生徒は、何かのきっかけで改善することもあることから、高校入学をきっかけにその生徒の能力を発揮できるような体制を作っていくべきではないかな。
- ・ 中山間地域の生徒の通学負担軽減のため、交通の利便性を考慮した高校配置をお願いしたい。また、現在の特例校の維持、拡大も検討していただきたい。
- ・ 地域に関連した探究学習を 3 年間系統的に行う体制づくりについて、高校と地域をつなぐコーディネーターを配置して進めるべきではないかな。
- ・ 私立高校への単願で進学する生徒が増加している傾向がある。志望先を決定する時期も早まっていると感じており、公立高校の魅力発信の充実や入試に向けたスケジュールの見直しが必要ではないかな。

西川 信明 学校教育室高校改革課長

- ・ 特色ある学科等の設置について、北海道の幌加内高校のように、学校設定科目として「そば」に係る授業を週に 2 コマ設定している学校もあり、岩手県においても地域の特徴を活かした学びにより、高校の特色化を図ることを検討したい。
- ・ 工業学科については、充足率の低い学科もあることから、今後、校長や関係団体等と連携し、見直しについて検討したい。また、建設業協会等からの御意見についても、機会を捉えて伺いたいと考えている。
- ・ 私立高校の定員については、私立高校を所管するふるさと振興部とも連携し、今後も私学協会の代表者等と積極的に意見交換を行っていく。
- ・ 総合学科高校については、第 3 期県立高校再編計画の前期計画期間中に、これまでの総合学科高校の検証を行う予定であり、併せて、今後の在り方についても検討する予定としている。

富岡 靖博 株式会社トミオカ 代表取締役

- ・ 盛岡工業高校の移転計画について、旧盛岡南高校跡地への移転が進んでいるとのことだが、今後のスケジュールや流れが現時点で決まっていれば教えていただきたい。

西川 信明 学校教育室高校改革課長

- ・ 旧盛岡南高校校舎の大規模改修に約 2 年、産業教育施設の整備にさらに約 2 年、計 3 ～ 4 年かかる見込みである。
- ・ 早期の設計予算確保を目指しており、できるだけ早く移転に着手したいと考えている。